



後志管内島牧村の第2白糸トンネル岩盤崩落事故の復旧対策として建設が進められてきた白糸トンネルが、平成11年4月8日に着工から約1年半という短期間で無事開通した。

1. 第2白糸トンネル岩盤崩落事故

平成9年8月25日(月)午後2時30分頃、島牧村持田にある一般国道229号第2白糸トンネルの瀬棚町側坑口において、トンネル巻出部上方の岩盤(高さ約130m、幅約70m、厚さ約20m)が崩落し、トンネルの巻出部及び擁壁部約126mが破壊された。その後、8月28日(木)午後1時30分頃にも2回目の崩落が発生し、崩落岩体の総体積は約56,000m³に達した。豊浜トンネル崩落事故の約5倍の想像を絶する規模である。

この崩落によって、一般国道229号は、島牧村栄浜～瀬棚町須築間約9.4が通行止めとなった。平成9年12月1日から島牧村栄浜～島牧村持田間3.0に短縮されたものの通行止めの状態が続いていた。



一般国道229号
第2白糸トンネル岩盤崩落

一般国道229号

白糸トンネルが開通



工事中の島牧村側坑口

2. 新しい「白糸トンネル」の概要

事故調査委員会（委員長：佐藤壽一北大教授）による現道の安全性検討の結果、今回の崩壊箇所の他に第1白糸トンネルから第2白糸トンネルの区間に崩壊の可能性が高い岩体があることが認められた。このことから、復旧工法は、これら区間を山側に迂回する延長1,806mの別線トンネルを建設することとなった。

トンネルの掘削は、瀬棚町側は平成10年1月15日に、島牧村側は2月27日に着手され、早期完成・供用をめざして両坑口から3交代24時間体制で掘り進められ、9ヵ月という短期間で10月22日無事貫通した。

引き続き、舗装、照明、防災設備等各種工事が進められ、この4月8日に待望の



白糸トンネル工事
作業状況



貫通式（握手を交わす島牧村
長と瀬棚町長）



関係者による喜びのテープカット



開通式に先立って行われた防
災訓練

3. 開 通

4月8日の開通当日には、開通式に先立ち、小樽開発建設部や警察、消防等地元関係機関による防災訓練が実施された。新トンネル内で乗用車同士の衝突事故が発生したとの想定で、情報の伝達や通行規制、救出、消火など訓練が行われ、防災体制に万全を期した。

午前11時半から新トンネルの瀬棚町側坑口で開通式が行われた。式典で野坂隆一・小樽開発建設部長は「二度にわたる大規模岩盤崩落を教訓として、防災対策を最重点課題として取り組んでおり、今後とも安全で安心な道づくりに全力で取り組む所存である」とあいさつした。

テープカット後供用開始され、この日を待ちわびていた地元住民などの車が行き交い、日本海側の道南と道央を結ぶ幹線ルートが1年8ヵ月ぶりの復旧を喜びあった。

（資料提供：小樽開発建設部 道路課）

